

経営比較分析表（令和元年度決算）

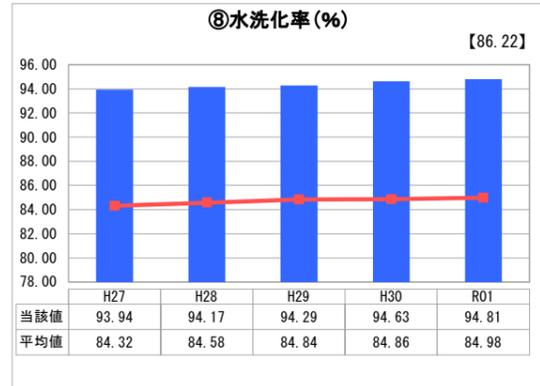
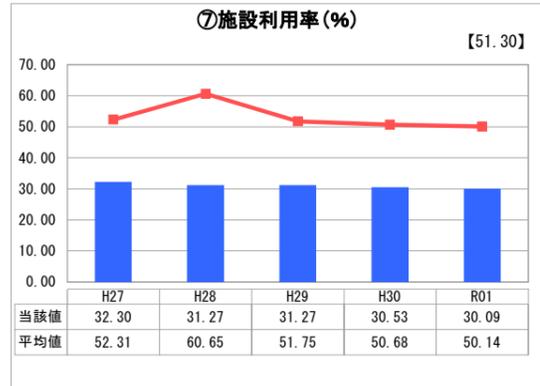
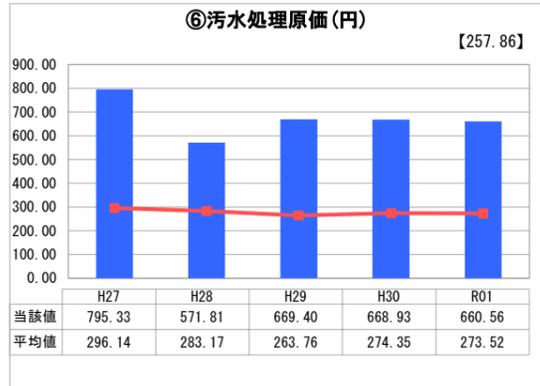
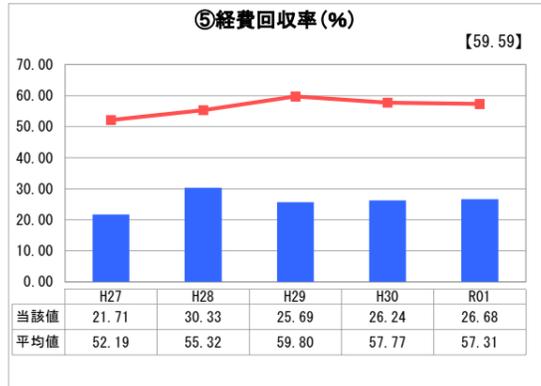
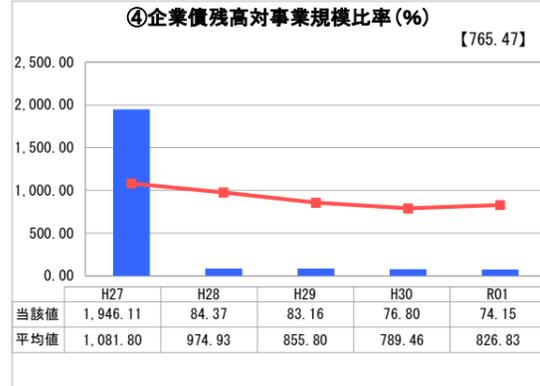
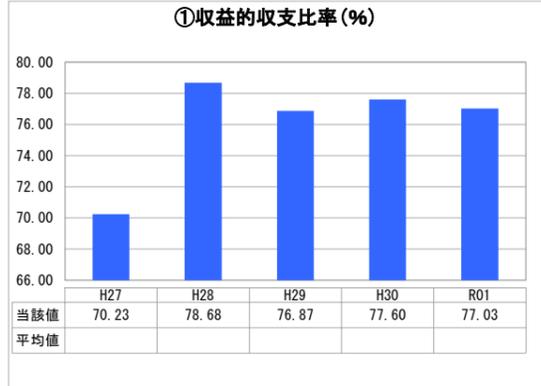
山口県 宇部市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	農業集落排水	F2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.85	72.28	3,135

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
164,255	286.65	573.02
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
1,388	2.72	510.29

グラフ凡例	
■	当該団体値（当該値）
—	類似団体平均値（平均値）
【	令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

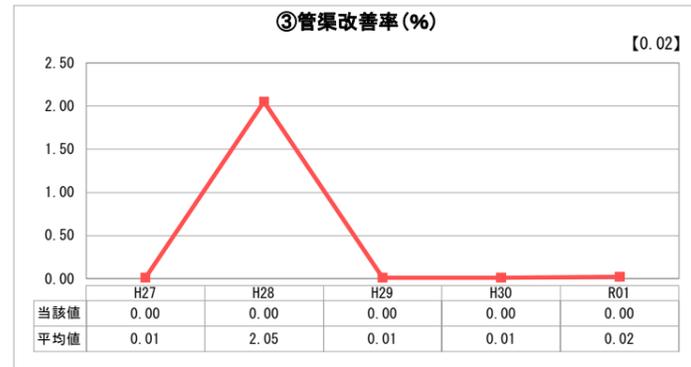
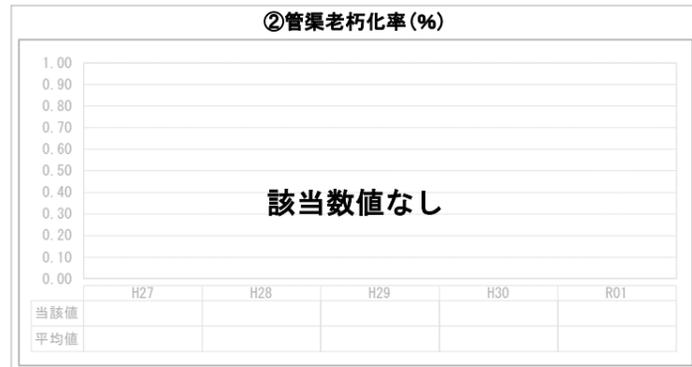
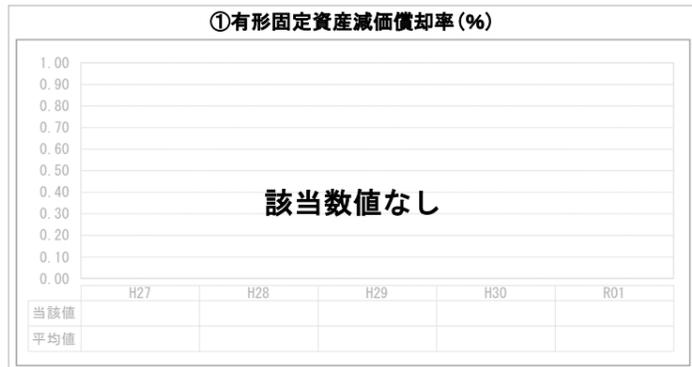
1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は料金収入（総収益の一部）及び職員給与費（総費用の一部）が共に減っており比率は前年度とほぼ横ばいである。
 ②累積欠損金比率は、令和元年度は発生しなかったため該当数値なし。
 ③流動比率は、令和元年度は発生しなかったため該当数値なし。
 ④企業債残高対事業規模比率は、平成28年度から分流式下水道に係る一般会計からの繰出金の算出基準が変更された。企業債残高に対して営業収益の一部である受託工事収益等は前年同様にないため横ばいである。
 ⑤経費回収率は、平成28年度から分流式下水道に係る一般会計からの繰出金の算出基準が変更されたことによる汚水処理費の削減により上昇した。令和元年度は使用料収入が減少となったが、汚水処理費が削減しているため、経費の回収率は若干上昇している。
 ⑥汚水処理原価は、平成28年度に分流式下水道に係る一般会計からの繰出金の算出基準が変更されたことによる汚水処理費の削減により低下した。令和元年度は汚水処理費と有収水量が共に減少し、汚水処理原価は横ばいの状況である。
 ⑦施設利用率は横ばいの状況が続いているが、令和元年度は処理区域内人口の減少により晴天時一日平均処理水量が僅かながら減少しているため、施設利用率も減少している。
 ⑧水洗化率は、類似団体平均値を上回る高い数値を保持している。100%を目標にさらなる水洗化率の上昇に努める。

2. 老朽化の状況について

本市の農業集落排水施設は、平成8年度から平成16年度にかけ供用開始し、事業は完了している。処理施設は適正に維持管理を行ってきたが、老朽化等に伴い躯体及び機器等の機能低下がみられたため、平成26年度より機能強化事業に着手し平成29年度で完了した。
 今後、令和2年度から、地方創世汚水処理施設整備推進交付金を活用して、処理場の機器更新等を行っていく。

2. 老朽化の状況



全体総括

本市と山陽小野田市の水道水源である小野湖の水質保全も目的とした事業であるため、収益でまかなえない費用は一般会計で賄っている。
 老朽化に伴う施設の改築は、機能強化事業として国庫補助を活用しているが、改築による企業債の増加や人口減少による使用料収入の減収が見込まれるため、汚水処理費（維持管理費）の縮減や水洗化の促進、収納率向上による料金収入の増収に引き続き努めていく。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。